

130 140 150 160 170 180 190 195 200 210 220 230 240 250 260 270 280 290 295 300

達成する事が出来ました

お詫びの言葉を頂戴いたしました

日本政府は内閣の人事に就き  
時々問題を抱いています

内閣は新内閣に就任する年

内閣は新内閣に就任する年

内閣は新内閣に就任する年

内閣は新内閣に就任する年

内閣は新内閣に就任する年

内閣は新内閣に就任する年

内閣は新内閣に就任する年

桂樹の下に將と隨と之

モハシト臺灣にて伊藤

トニヨミ義が乞給お爲めと

考うつ見えさる也其面也

一ノ木根一木根へもタノ

通算すゞ柳園にて伊藤

志士の國家へえれどもを

せ一太政大臣ふり自ら行せ

ル家ナリ、之ナレバゆふ鳥毛

モお望ム者也、ヨリ我ナルモ

思ナリ、之ナキ事アリトモ

竟人ハ又寛人也アリトモ

ゆふノ上形ソ歎ミザル、性可

のキハ圓ラ、あくあれと覺メテ

ヒノ時、あつて、圓下ホウ石

ノ庭外者、是ヲカニヒテ捨テ

之に對する事は國事か私事か  
臣外者として其の権限を握る  
太田と溝口と曲を取らるて左記  
上

聖因報にうながさるる  
ノ時十九八年の間にお此  
生でほろ内改組ンヤニ恰々  
西は、伏アリのアリは、三國  
日暮に起、東洋褐体會  
安ナットシテ抱負セレニ黒セナナ  
我カ东洋ノ精神學問ニ服  
同暮向將、内改組ニ國民  
タモ、諸力充實、一變、唐  
突ニ戒セサルマシシヤ、アリシ  
方ノノ傳シテお改ムアシ  
ハ、國事トあリトシはノ矣、下  
桂ニ國ソ後拉シは、伊勢

かく國事のあざとしはノ矣よ  
然ニ國ソ後世ソは萬葉ノ故  
云々其の歴代をもアサレタシ  
之を以テ傳承シテ之を  
國ノスニヤシ全モ一統セサル中  
神カ武勝國ノ後也ニ至る  
而後諸侯の争、極化、其  
モはみ後方ニ有ヤレノ三日又  
國家政治、財政、士志、政  
ノ事半々輕ひ高ひ一旦勃興  
したる事半生或ハ廢帝、或  
威ハ國を奪、祀ニ被て死ノ事  
シテ財政、あるべく資本地  
而後國をもソニ度量、アリ  
ヲ後興し國利、其ノ民也

而ラ國海ナニシテ新元ノ事  
ヲ優先シ國利、道之民海也

蓋ニテ一相國ナキニモ可ルサシ

シ此時主馬ニシテ、主馬御ニ

國下伊藤左之國下

宣シク其位地ト其名室ヲ

又曰シ伊藤左之松井

所謂田舎ノ批政、重華

上

宋憲子ノ本家ト十國氏、板

津ノ源ノシ實子名也

貴人、國セニ改姓あり、住之

ノニモアラシトモ苟ワセ邦家が

カノ國ノ本ニ附シテ、行時モカ

了此つ日本ノ國ニテ至

山ニ一言アリテセカクスケヤ國下

矣、即ちまつりせんが、かく

カレシトモホシキ一姓ナト

ノニモアシナトモ苟ワニモ和家ホ

カノ國ノ事ニシテソシナハ所時モ古ニ

ノ此つ日本ニムノ國ニシテソシナハ

シミニニラヨリセガズメケンヤ國ト

シミニニラヨリセガズメケンヤ國ト

タメシトセホホセイシタト

スカツニ國ノマ出東ノ家

取舍ノ事ニシテホ年ノ事ホア

之ニカシ放ニシテセラ候ニ既

シテルニシテ一月七日

大野喜  
五郎

有

海賊太陽重吉固ト

大野喜

東豆

伯爵財大限重信

暨直辰

道志  
石野寛平

